



LEYBONOL LVO 130

Leybold Japan Co., Ltd

Chemwatch: 5311-09

バージョン番号: 15.1

安全データシート - JIS Z 7253 : 2019 準拠

発行日: 19/01/2023

印刷日: 25/01/2023

S.GHS.JPN.JA.E

セクション1 化学品及び会社情報

製品に関する情報

製品名	LEYBONOL LVO 130
同義語	L13001; L13005; L13020; L13098
化学式	該当しない
他の製品特定手段	データ無し

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途及び使用上の制限	真空ポンプオイル
--------------	----------

供給者の詳細

供給者の会社名称	Leybold Japan Co., Ltd
住所	3-23-3 Shin-Yokohama Kohoku-ku, Yokohama-Shi 222-0033 Japan
電話番号	+81 45 471 3330
FAX番号	+81 45 471 3323
ホームページ	データ無し
e-メール	sales.yh@leybold.com

緊急連絡電話番号

会社名	CHEMWATCH 緊急時対応
緊急連絡電話番号	+81 50-3204-4966
その他の緊急連絡電話番号	+61 3 9573 3188

電話がつながった時のメッセージがご希望の言語でない場合は、06をダイヤルしてください

セクション2 危険有害性の要約

化学物質又は混合物の分類

分類 ^[1]	該当しない
-------------------	-------

GHSラベル要素

絵表示:	該当しない
------	-------

注意喚起語	該当しない
-------	-------

危険有害性情報

該当しない

注意書き: 安全対策

該当しない

注意書き: 応急措置

該当しない

注意書き: 保管(貯蔵)

該当しない

注意書き: 廃棄

該当しない

セクション3 組成および成分情報**物質**

混合物の組成については、以下のセクションを参照してください

混合物

CAS番号	% [重量]	名称	官報公示整理番号		ナノ フォー ム粒子 特性
			化審法	安衛法	
データ無し	0-90	interchangeable low viscosity base oil (<20.5 cSt @40C)	8-425, 9-2468	公表	データ 無し
データ無し	<3	(DMSO w/w - IP346)	-	-	データ 無し
データ無し		*次のCAS番号 (REACH登録番号) が1つまたは複数含まれる:	-	-	データ 無し
データ無し		64742-53-6 (01-2119480375-34), 64742-54-7 (01-2119484627-25), 64742-55-8 (01-2119487077-29), 64742-56-9 (01-2119480132-48), 64742-65-0 (01-2119471299-27), 68037-01-4 (01-2119486452-34), 72623-86-0 (01-2119474878-16), 72623-87-1 (01-2119474889-13), 8042-47-5 (01-2119487078-27), 848301-69-9 (01-0000020163-82), 68649-12-7 (01-2119527646-33), 151006-60-9 (01-2119523580-47), 163149-28-8 (01-2119543695-30)	-	-	データ 無し
凡例: [e] 内分泌かく乱作用をもつと認められている物質					

セクション4 応急措置**必要な応急措置の説明**

眼に入った場合	<p>眼に入った場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 直ちにきれいな流水で洗浄すること。 ▶ 洗眼は、眼球、瞼の隅々まで水がよく行き渡るように行うこと。 ▶ 速やかに医師の手当てを受けること。痛みが続いたり繰り返す場合は、医師の手当てを受けること。 ▶ 目に損傷がある場合、コンタクトレンズの取り外しは、専門家に任せること。
皮膚に付着した場合	<p>皮膚に付着した場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 直ちに汚染された衣類すべて(履物を含む)を脱がせること。 ▶ 流水で皮膚および毛髪を洗浄すること。必要に応じて石鹸を使用すること。 ▶ 炎症がある場合には、医師の手当てを受けること。
吸入した場合	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ヒュームや燃焼生成物を吸入した場合、汚染区域から退去すること。 ▶ 患者を寝かせ、体を温めて安静を保つこと。 ▶ 義歯等の装具は気道を塞ぐおそれがあるため、可能であれば応急措置を施す前に取り外すこと。 ▶ 呼吸が停止している場合は、デマンドバルブ式人工蘇生器、バッグバルブマスク、ポケットマスクなどを使用して人工呼吸を行うこと。必要に応じて心肺蘇生を行うこと。 ▶ 病院または医師のもとへ搬送すること。
飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 飲み込んだ場合、無理に吐かせないこと。 ▶ 嘔吐した場合、気道の確保および誤嚥防止のため、患者を前傾あるいは左側臥位にし、可能であれば頭を下にした状態を保つこと。 ▶ 患者の経過観察を行うこと。 ▶ 眠気や意識不明状態などの意識低下がみられる場合、水を与えてはならない。 ▶ 口内を洗い流すために水を与え、その後患者が無理なく飲める量の液体をゆっくりと与えること。 ▶ 医師の診断を受けること。

医師に対する特別な注意事項

対症療法を行うこと。

- ▶ 長年にわたる継続的および重度の皮膚ばく露は、異型性の皮膚疾患を引き起こすことがある。この製品にばく露されることで、既に存在する皮膚病を悪化させることがある。
- ▶ 一般的に、粘性が高く揮発性が低い物質(油類および油脂類)の場合、嘔吐を誘導する必要はない。
- ▶ 誤って皮膚に高圧注射をした場合、切開、洗浄および/または創傷清浄の必要があるか検査すること。

注記:

一見重症に見えない怪我でも、数時間以内に広範囲の皮下組織壊死を伴う組織の腫脹、変色、激痛を引き起こすことがある。製品が組織面に沿って身体の広範囲に移動することがある。

セクション5 火災時の措置**消火剤**

- ▶ 泡沫
- ▶ 乾燥化学粉末
- ▶ 二酸化炭素
- ▶ 水スプレーまたは霧 - 大規模火災時のみ

特有の危険有害性

火災の際に避けるべき条件	発火する危険性があるため、硝酸塩、酸化性酸、塩素系漂白剤、プール用塩素などの酸化剤による汚染を避けること。
--------------	---

消火活動に関する情報

特有の消火方法	<ul style="list-style-type: none">▶ 消防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。▶ 呼吸装置を備えた保護衣および保護手袋を着用すること。▶ あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。▶ 水の微細噴霧を利用し、鎮火および火災現場周辺の冷却に努めること。
火災及び爆発の危険性	<ul style="list-style-type: none">▶ 可燃性である。▶ 熱または炎へのばく露による火災の危険性は低い。▶ 加熱により、容器の激しい破裂を伴う膨張や分解が生じることがある。▶ 燃焼時に分解し、一酸化炭素(CO)の毒性ガスを発生することがある。 燃焼生成物: 二酸化炭素 (CO ₂) 硫黄酸化物 (SO _x) 窒素酸化物(NO _x) リン酸化物 (PO _x) 有機物の燃焼特有の、その他の熱分解生成物 倉庫あるいは閉鎖的な保管場所では、十分な換気を行うこと。

セクション6 漏出時の措置**人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置**

セクション 8 参照

環境に対する注意事項

セクション 12 参照

封じ込め及び浄化の方法及び機材

小規模漏出の場合	漏出時スリップ注意。 <ul style="list-style-type: none">▶ 全ての発火源を除去すること。▶ 直ちに全ての漏出物を除去すること。▶ 蒸気の吸入、皮膚および目との接触を避けること。▶ 保護具を着用し、人体への接触を抑制すること。
大規模漏出の場合	漏出時スリップ注意。 中程度の危険有害性 <ul style="list-style-type: none">▶ 現場から人員を退去させ、風上へ移動させること。▶ 消防に通報し、事故の場所と危険有害性に関する情報を伝えること。▶ 呼吸装置を備えた保護衣および保護手袋を着用すること。▶ あらゆる手段を用いて、排水路または水路への漏出物の流入を防ぐこと。

個人用保護具に関する情報については、SDSのセクション8をご参照ください。

セクション7 取扱い及び保管上の注意**安全な取扱いのための予防措置**

安全取扱注意事項	<ul style="list-style-type: none">▶ 吸入を含む、人体へのあらゆるばく露を避けること。▶ ばく露の可能性がある場合は、保護衣を着用すること。▶ 換気の良い場所で使用すること。▶ 窪地および排水だめでの濃縮を避けること。
----------	---

他の情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 元の容器のまま保管すること。 ▶ 容器を完全に密封して保管すること。 ▶ 禁煙。裸火または発火源となるものの使用禁止。 ▶ 換気の良い冷乾所に保管すること。
------	---

混触危険性を含む、安全な保管条件

適切な保管条件	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 金属缶またはドラム缶 ▶ 製造者が推奨する容器を使用すること。 ▶ すべての容器に明確なラベルが貼り付けられていることおよび漏れがないことを確認すること。
避けるべき保管条件	<p>注意: 加熱した物質に水が接触すると、発泡または蒸気爆発を起こし、加熱物質の飛散により重度の熱傷を生じることがある。容器から溢れ出し、火災を引き起こすことがある。 酸化剤との反応を避けること。</p> <p>多機能性を持つアクリル酸塩の場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ フリーラジカル開始剤(過酸化化物、過硫酸塩)、鉄、さび、酸化剤、強酸および強塩基との接触を避けること。 ▶ 熱、炎、太陽光、エックス線、紫外線を避けること。 ▶ 保管中に有効期限が超過すると重合反応が生じることがある。重合が大量に生じると、激しく(場合によっては爆発的に)反応することがある。

セクション8 ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター

許容濃度(OEL)

成分に関する情報

出典	成分	物質名	TWA	STEL	ピーク	注記
日本産業衛生学会: 許容濃度	interchangeable low viscosity base oil (<20.5 cSt @40C)	鉱油ミスト	3 mg/m3	データ無し	データ無し	データ無し

緊急ばく露限度

成分	TEEL-1	TEEL-2	TEEL-3
interchangeable low viscosity base oil (<20.5 cSt @40C)	140 mg/m3	1,500 mg/m3	8,900 mg/m3

成分	オリジナルIDLH	改訂IDLH
interchangeable low viscosity base oil (<20.5 cSt @40C)	2,500 mg/m3	データ無し

ばく露管理

適切な工学的管理方法	<p>工学的管理(設備対策)は、危険有害性を排除するため、または作業員を危険有害性から防御するために使用される手法である。適切に設計された工学的管理(設備対策)により、通常、作業員が関与することなく、作業員を効果的に保護することができる。</p> <p>工学的管理(設備対策)の基本: 工程管理 - 作業または作業工程に変更を加え危険性を低減する。 放出源の密閉および/または隔離 - 作業員を物理的危険有害性から隔離する。換気 - 効果的に作業環境の空気を入れ替える。適切に設定されている場合、換気により空気中の汚染物質を排除または希釈することができる。換気システムは、特定の工程および使用する化学物質または汚染物質に合わせて設計する必要がある。 雇用主は、作業員の過剰ばく露を避けるために複数の制御手法を用いる必要がある。</p>
個人保護措置	
眼/顔面の保護	<ul style="list-style-type: none"> ▶ サイドシールド付きの保護眼鏡。 ▶ ケミカルゴーグル。 ▶ コンタクトレンズの使用は、特殊な危険有害性を引き起こすことがある; ソフトコンタクトレンズは、刺激物を吸収・濃縮することがある。レンズの装用および使用制限を明記した方針文書を作業の種類または場所ごとに作成しておくこと。当該文書には、レンズによる使用化学物質群の吸収および吸着に関する評価結果、および障害例の記録等を掲載すること。医療関係者や救急隊員はレンズの取り外しについての訓練を受け、同時に適切な器具を速やかに使用できるよう準備しておくべきである。化学物質へのばく露時には、直ちに洗眼し、速やかにレンズを取り外すこと。眼の発赤または刺激の初期兆候が見られる場合には、レンズを取り外すこと - レンズの取り外しは、清潔な環境において、手をよく洗ってから行なうべきである。[CDC NIOSH Current Intelligence Bulletin 59], [AS/NZS 1336 または国内同等規格]
皮膚の保護	以下の手の保護具を参照してください。
手/足の保護	適切な手袋の選択は、材質だけでなく、製造業者間で異なる品質保証にも注意する必要がある。化学品が複数の化学物質の調剤である場合、手袋材質の耐久性は事前に計算することができず、したがって、使用前に確認しておくことが重要である。物質に対する正確な破過時間は、保護手袋製造業者から得ることができ、最終的な選択の際に重視するものである。

	個人衛生は効果的な手の保護の重要な要素である。手袋は清潔な手に着用する必要がある。手袋使用後は、手を洗浄し、完全に乾燥させる必要がある。無香料の保湿剤を使用することが望ましい。 手袋種類の適合性と耐久性は使用用途による。手袋の選定における重要な要因は次のとおりである: <ul style="list-style-type: none">・ 接触頻度および時間、・ 手袋材料の耐化学品性、・ 手袋の厚さ、・ 作業性 関連する規格に適合した手袋を使用すること(欧州EN374、US F739、AS/NZS 2161.1または国内同等規格等)。 <ul style="list-style-type: none">▶ ポリ塩化ビニル製などの化学用保護手袋を着用すること。▶ ゴム製などの安全靴または安全長靴を着用すること。
身体の保護	以下の他の保護具を参照してください。
他の保護	<ul style="list-style-type: none">▶ 防護用密閉服(つなぎ型)▶ 塩化ビニル製エプロン▶ 保護クリーム▶ 皮膚洗浄クリーム▶ 洗眼用設備

呼吸用保護具

緊急事態時に現場に進入する場合、または酸素濃度や蒸気濃度が不明なエリアでは、カートリッジ式呼吸器用保護具を使用しないこと。カートリッジ式呼吸器用保護具を着用しているにも関わらず、なんらかの臭いを察知した場合は、直ちにその汚染区域から退去すること。臭いを察知した場合、その呼吸器用保護具が適切に機能していない、蒸気濃度が非常に高い、または、保護具が着用者に合っていないことが考えられる。このようにカートリッジ式呼吸器用保護具の使用には制限があるため、適切な状況においてのみ使用が認められている。

セクション9 物理的及び化学的性質

物理的および化学的性質に関する基本情報

外観	データ無し		
物理状態	液体	相対密度 (水 = 1)	0.881
臭い	Hydrocarbon	n-オクタノール/水分配係数	>6
嗅覚閾値	データ無し	自然発火点 (°C)	>320
pH	該当しない	分解温度 (°C)	データ無し
融点/凝固点 (°C)	-12	動粘性率 (cSt)	68 @ 40C; 8.8 @ 100C
沸点/初留点/沸点範囲 (°C)	>280	モル質量 (g/mol)	該当しない
引火点 (°C)	223-230 (COC)	味	データ無し
蒸発速度	データ無し	爆発性	データ無し
可燃性	該当しない	酸化特性	データ無し
爆発上限界 (%)	10	表面張力 (dyn/cm or mN/m)	データ無し
爆発下限界 (%)	1	揮発性成分 (%vol)	データ無し
蒸気圧 (kPa)	Negligible	ガスグループ	データ無し
溶解度	不溶	pH (溶液) (1%)	該当しない
相対ガス密度 (空気 = 1)	>1	揮発性有機化合物 g/L	データ無し
ナノフォーム溶解度	データ無し	ナノフォーム粒子特性	データ無し
粒子サイズ	データ無し		

セクション10 安定性及び反応性

反応性	セクション 7 参照
化学的安定性	<ul style="list-style-type: none">▶ 混触危険性物質が存在する。▶ 製品は安定していると考えられる。▶ 危険な重合反応は起こらないと考えられる。
危険有害反応可能性	セクション 7 参照
避けるべき条件	セクション 7 参照
混触危険物質	セクション 7 参照
危険有害な分解生成物	セクション 5 参照

セクション11 有害性情報

LEYBONOL LVO 130

毒物学的影響に関する情報

吸入した場合	高温では吸入による危険性が高まる。 不揮発性であるため、有害性を有するとは通常考えられていない。 油の飛沫またはエアゾールを吸入すると、不快感が生じ、肺に化学的炎症が生じることがある。
飲み込んだ場合	EC指令または他の分類基準により、「飲み込むと有害」に分類されていない。これは、裏付けとなる動物またはヒトにおける証拠が不足しているためである。
皮膚に付着した場合	脂肪または油と混和し、非アレルギー性接触皮膚炎と呼ばれる皮膚反応を引き起こし、皮膚が脱脂されることがある。EC指令に記述されるような刺激性接触皮膚炎が起こることはあまりない。 開放創、擦り傷または炎症がある場合は、皮膚への接触を避けること。 皮膚疾患がある場合、症状を悪化させることがある。
眼に入った場合	この液体は、(EC指令の分類に基づく) 刺激性物質としては考えられていないが、眼に入った場合、涙液または結膜発赤 (風焼けの症状と同様) を特徴とする一過性の不快感を生じることがある。
慢性毒性	油は、皮膚に接触または吸入されることがある。長期間のばく露は、湿疹、毛包炎、顔面色素沈着、足裏イボを引き起こすことがある。全身への影響があるが、長期間のばく露は、肺の瘢痕化を増加させることがある。

LEYBONOL LVO 130	毒性	刺激性
	Dermal (Rabbit) LD50: >5000 mg/kg ^[2] Oral (Rat) LD50: >5000 mg/kg ^[2]	データ無し
interchangeable low viscosity base oil (<20.5 cSt @40C)	毒性	刺激性
	データ無し	データ無し
凡例: 1. 欧州ECHA登録物質 - 急性毒性 - から得られた値。2. *の値は製造者のSDSから得られた値。特に注記のないデータはRTECSから抽出した値。		

急性毒性	×	発がん性	×
皮膚腐食性/刺激性	×	生殖毒性	×
眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性	×	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	×
呼吸器感作性又は皮膚感作性	×	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	×
生殖細胞変異原性	×	誤えん有害性	×

凡例: × - データ利用不可または、区分に該当しない
✓ - 分類済み

内分泌かく乱特性

データ無し

セクション12 環境影響情報

生態毒性

LEYBONOL LVO 130	Endpoint	Test Duration (hr)	Species	Value	Source
	LL/EL/IL50	データ無し	魚類	>100mg/L	8
	LL/EL/IL50	データ無し	藻類または他の水生植物	>100mg/L	8
	LL/EL/IL50	データ無し	甲殻類	>100mg/L	8
interchangeable low viscosity base oil (<20.5 cSt @40C)	エンドポイント	試験期間 (時間)	種	値	出典
	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し	データ無し
凡例: 1. IUCLID毒性データ 2. 欧州ECHA登録物質 - 生態毒性情報 - 水生毒性 4. 米国環境保護庁, Ecotoxデータベース - 水生毒性データ 5. ECETOC水生環境有害性評価データ 6. NITE (日本) - 生物濃縮性データ 7. METI (日本) - 生物濃縮性データ 8. ベンダーデータから抽出					

下水道または水路に排出しないこと。

残留性・分解性

成分	残留性: 水域/土壌	残留性: 大気
	すべての成分のデータ無し	すべての成分のデータ無し

生体蓄積性

成分	生物濃縮性
	すべての成分のデータ無し

土壌中の移動性

成分	移動性
	すべての成分のデータ無し

内分泌かく乱特性

データ無し

セクション13 廃棄上の注意

廃棄方法

製品／容器／包装の廃棄方法	<p>廃棄物の処理要件を定める法規制は、国や地域により異なる。現地で施行されている法規制を確認すること。地域によっては、特定廃棄物の追跡管理が必要となる。</p> <p>段階的な管理が一般的である（取扱者による調査が必要）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ リデュース - 廃棄物の発生抑制 ▶ リユース - 再使用 ▶ リサイクル - 再生資源の利用 ▶ 廃棄（最終手段） <p>本製品は、未使用の場合や汚染されていないが意図する用途に適さない場合には、リサイクルしてもよい。汚染されている場合には、ろ過、蒸留またはその他の方法による再生が可能な場合もある。このような判断をする場合、保管寿命も考慮すべきである。取扱い中に物質の性質が変わる可能性があり、その場合には再生利用や再使用が適切とはなり得ない点に注意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 器具の洗浄に用いた洗浄水は排水路に流入させないこと。 ▶ 器具の洗浄に用いた洗浄水は、排出する前にすべて回収し適切な処理を施す必要がある。 ▶ 下水道への排出は国内法規制の対象となることがあるため、常に、その国内法規制の要件を考慮しなければならない。 ▶ 不明な点は、担当当局に問い合わせること。 ▶ 製造者にリサイクルの可否を問い合わせ、可能な場合はリサイクルすること。 ▶ 廃棄する場合は廃棄物の処理を管理している都道府県・市町村に問い合わせること。 ▶ 残留物は、認可を受けた処分場で焼却または埋立処分すること。 ▶ 容器は、可能であれば再生利用、もしくは認可を受けた埋立処分場に廃棄すること。
---------------	--

セクション14 輸送上の注意

要求されるラベル

海洋汚染物質	該当しない
--------	-------

陸上輸送 (UN): 危険物輸送規制対象外

航空輸送 (ICAO-IATA / DGR): 危険物輸送規制対象外

海上輸送 (IMDG-Code / GGVSee): 危険物輸送規制対象外

MARPOL 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送

該当しない

MARPOL 附属書 V 及び IMSBC コードによるばら積み輸送

製品名	グループ
interchangeable low viscosity base oil (<20.5 cSt @40C)	データ無し

ICG コードによるばら積み輸送

製品名	輸送タイプ
interchangeable low viscosity base oil (<20.5 cSt @40C)	データ無し

セクション15 適用法令

物質又は混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

interchangeable low viscosity base oil (<20.5 cSt @40C)に関する適用法令

Japan Occupational Exposure Limits - Carcinogens

ケミカル フットプリント プロジェクト - 高懸念化学物質リスト

国際がん研究機関(IARC) - IARCモノグラフにより分類された化学物質

国際がん研究機関(IARC) - IARCモノグラフにより分類された化学物質 - グループ 1: ヒトに対する発がん性がある

国際がん研究機関(IARC) - IARCモノグラフにより分類された化学物質 - ヒトに対する発がん性について分類できない

日本 労働安全衛生法

日本 化審法: 既存化学物質/新規公示化学物質

日本 許容濃度等

日本安衛法: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 文書の交付		
	政令名称	政令番号	
	鉱油	別表第9の168	
	名称等を表示すべき危険物及び有害物		
	政令名称	政令番号	
	鉱油	別表第9の168	
	製造の許可を受けるべき有害物		
	政令名称	政令番号	
	該当しない	該当しない	
	関連する法令・条例		
危険物 - 酸化性の物	該当しない		
危険物 - 引火性の物	該当しない		
有機溶剤	該当しない		
特定化学物質	該当しない		
PRTR - 化管法	分類	政令名称	政令番号
	該当しない	該当しない	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない		
化審法	優先評価化学物質	該当しない	
	第1種特定化学物質	該当しない	
	第2種特定化学物質	該当しない	
	監視化学物質	該当しない	
	一般化学物質	硫化鉱油, 酸化鉱油	

国別インベントリ状況

国別インベントリ	状況
オーストラリア - AIIC / オーストラリア非工業用	Yes
カナダ - DSL	Yes
カナダ - NDSL	Yes
中国 - IECSC	Yes
欧州 - EINEC / ELINCS / NLP	Yes
日本 - ENCS	Yes
韓国 - KECI	Yes
ニュージーランド - NZIoC	Yes
フィリピン - PICCS	Yes

国別インベントリ	状況
米国 - TSCA	Yes
台湾 - TCSI	Yes
メキシコ - INSQ	Yes
ベトナム - NCI	Yes
ロシア - FBEPH	Yes
凡例:	Yes = 全ての成分がインベントリに記載されている No = 記載されている成分はインベントリに記載されていない。これらの成分は対象外であるか、登録・届出が必要である

セクション16 その他の情報

改訂日	19/01/2023
最初の発行日	12/06/2018

SDSバージョンの概要

バージョン	改訂日	更新されたセクション
14.1	03/11/2022	外観
15.1	19/01/2023	外観, 供給者の詳細

他の情報

製品および各成分の分類は、公式かつ信頼性の高い情報源や、参考文献を使用したChemwatch分類委員会独自の評価によるものです。

SDSはハザードコミュニケーションのツールであり、リスクアセスメントの一助として使用されるべきである。掲載されているハザードが、作業場やその他の環境においてリスクをもたらすか否かは、様々な要素により決定される。暴露シナリオを参照することにより、リスクが特定されることもある。使用規模、使用頻度および現行の設備管理も考慮しなければならない。

定義および略語

- ▶ PC-TWA: 時間加重平均許容濃度
- ▶ PC-STEL: 短時間ばく露限界許容濃度
- ▶ IARC: 国際がん研究機関
- ▶ ACGIH: 米国産業衛生専門家会議
- ▶ STEL: 短時間ばく露限界値
- ▶ TEEL: 一時的緊急ばく露限度
- ▶ IDLH: 脱出限界濃度
- ▶ ES: ばく露基準
- ▶ OSF: 臭気安全係数
- ▶ NOAEL: 無毒性量
- ▶ LOAEL: 最小毒性量
- ▶ TLV: 許容濃度
- ▶ LOD: 検出限界値
- ▶ OTV: 臭気検知閾値
- ▶ BCF: 生物濃縮係数
- ▶ BEI: 生物学的ばく露指標
- ▶ AIIC: オーストラリア工業化学品インベントリ
- ▶ DSL: 国内物質リスト
- ▶ NDSL: 非国内物質リスト
- ▶ IECSC: 中国現有化学物質名録
- ▶ EINECS: 欧州既存商業化学物質インベントリ
- ▶ ELINCS: 欧州届出化学物質リスト
- ▶ NLP: もはやポリマーとみなされない物質のリスト
- ▶ ENCS: E既存化学物質 / 新規公示化学物質
- ▶ KECI: 韓国既存化学物質目録
- ▶ NZIoC: ニュージーランド化学物質インベントリ
- ▶ PICCS: フィリピン化学品および化学物質インベントリ
- ▶ TSCA: 有害物質規制法
- ▶ TCSI: 台湾既存化学物質インベントリ
- ▶ INSQ: 国家化学物質インベントリ
- ▶ NCI: 国家化学品インベントリ
- ▶ FBEPH: ロシア 潜在的に有害性のある化学物質及び生物学的物質リスト

当データシートは著作権により保護されており、著作権法により許可される個人的な研究、リサーチ、批評もしくは論評等公正な目的に使用する以外には、ケムウォッチ (TEL: +61 3 9572 4700)からの書面による許可が無い限り、いかなる部分の複製も方法を問わず禁じられています。